

刊夕 日八十月九

常警每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五號十 諸一行金五拾錢
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日新聞社
 電話 六三〇

氏子民に急告

縣社子銀倉神社々司

山部 正勇

近時非常時局に際し、國民精神涵養の聲大となり、政府當局を始め、一般國民が神社に對し非常なる關心を有つに至れることは、誠に喜に堪えぬが、中には神社神職に就いて、其組織制度任務に就て、無理解の士なきにあらず、他に御吹聴の便宜上、茲には只神職任務上に就て述べんか神職は只單なる祈禱師にはあらず、國家宗祀の神社に奉仕し、縣の辭令の下に補任し、勅令第二十二條內務省令第九號の奉務規則を遵奉せねばならぬ者、神社の代表者として、

神職ハ社殿及境内ノ清潔修理ニ注意シ、神社ノ尊嚴ヲ保持スルニ努ムベシ

ノート

コンニヤクはいかにも不消化の様ですが實は消化がよく砂拂とさへ言はれます、それは腸にたまつた細菌や毒素を吸ひつけて排泄するからである

(第七條)神職ハ常ニ境内ノ樹木ニ付森嚴ナル風致ヲ保ツニ努メ、殊ニ其所

屬山林ニ就テハ保護植栽ヲ懈ルベカラズ(第十一條)

とあり、最近縣訓令にも査閱施行有之可旨通達あり、境内は境外地、又は外苑と異なり、運動競技に開放せ

◇ 明日の献立 ◇

【朝】味噌汁—ねぎ 小付 たくあん
 【晝】オムレツ トマトソ— ス
 【晚】牛舌煮込 マカロニ添へ— コキール

らるべきものによらず、常に清潔に敬虔嚴肅の念慮を起さしむる様、社司としては努めねばならぬ任務がある、縱令少數なりとは云へ境内の樹木を折損し、下乗札は投石の標的、椿花は一枝を殘さぬ迄に折り取り、社殿に色を塗抹し、水盤の銚を抜き、清浄なるべき水を以て泥靴を洗ひ、ハンケチの洗濯(水盤内に入れ)境内に於けるキャッチボール等、看過しをれば事足る様にはあれど、敬虔なる信者よりは屢々注意せらるゝ所あり、茲に從來とても學童の教養、監督に任せらるゝ學校當局に注意を促すは、止むなき處置と思料せり、前述せるが如く津田校長に

童に訓話せられしもの直接に委曲頭未を盡して覽に當職に當らること全く筋違ひの擧たり、尙も今次に限りて問題を生みしもの其何の故たるを解するに苦しむ、實に迷惑一方ならず茲

有給外務員數名募集

一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
 一、固定給の外旅費支給す
 御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ
 (明治十四年創立)
 (保險の開祖)

明治生命保險株式會社

平 事務所

所長 小野 勝康 平・仲町

外科

X光線科
 性病科
 外科科

入院隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

是非!

御融通には御利用下さい
 萬事便利な御相談に應じます

三井質店
 平四・電六〇六番

秋!!! 秋はの秋!!!

ドライブ……訪問……には……是非! 素晴らしく乗心地のよい、セリサワのニューカーを御用命下さい。

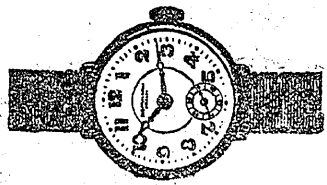
平・三 芹澤タクシ
 電 395番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 平町田町 電話五一三番
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

移轉御披露

自九月二十日 五日間
 至同二十四日



美術裝身具
 ライター指輪
 時計と眼鏡
 市價一割引
 景品付
 特價提供

山崎時計店

平・五丁目(モリタヤ東隣り)
 小野榮吳服店跡

□修繕は技術本位然も自信を以て勉勵します

忘れ難きけふ

平町の各種催し

愛國の一色に全町を染る

九月十八日、めぐり来る第三回目の日支事變記念日！
けふは滿蒙の曠野を戦火の血潮に染め皇軍の尊き犠牲者を出した忘れ難き日だ、平町ではけふ事變記念式、國防婦人會發會式、各學校の講演、在郷軍人分會の回顧座談會その他の催しに非常時意識を強調降る秋雨も物かは平町全町は國防、愛國の一色に塗りつぶされた先づ午後十時半より町會議事堂に各種團體聯合を以つて開催された事變三週年記念式席上に於ける青沼町長の式辭大要左の如くである

皇恩に酬ゆる

絶好の機會

青沼町長の式辭

(前略)時偶々昭和六年今日今日狂暴なる支那官兵は柳條溝の鐵路を爆破して我に戰を排んだのであります茲に於てか久しきに瀕り隱忍自重したる皇軍は敢然とし

遺骨二基 盛岡聯隊 平驛通過

獨立守備隊戦死者の遺骨二基は明十九日午後一時五十分平驛着列車で平町を通過するので各種團體員が送迎する

て立ち直ちに正義の利劍を揮ひ

疾風迅雷の勢を以て滿洲全土を席捲し遂に掃蕩殲滅して威武を中外

祖國日本が大飛躍を

勳功をしのんで

感謝の電報

平町ではけふの事變記念日に當り、滿洲樂土を築いた故多門中將、本庄繁、菱刈隆の三將軍の勳功に對し青沼町長の名を以て感謝の電報を發した

郡郷軍も

遙かに謝意を

滿洲事變三週年を迎へ閣下の勳功を偲び本町各種團體を代表し謹みて感謝の意を表す

在郷軍人石城郡聯合分會でも前關東軍司令官本庄繁、故多門中將遺族多門房子兩氏に左の如き感謝の電報をおくつた

關東軍司令官陸軍大將 菱刈 隆(宛)
宮内省侍從武官長 本庄 繁(宛)

今日の記念日を迎へ閣下の赫赫たる勳功を景慕し遙かに謝意を表す
在郷軍人石城郡聯合分會長 山崎 清三

非常時意識

銃後の支持に

婦人達の蹶起

けふ國防婦人分會結成

けふの事變三週年を記念するため創立された平町國防婦人分會の發式は雨に崇られて式場を變更して午前

九時半から平町會議事堂に清楚紅頬に示す愛國の至情も頼しき百有餘名の婦人参加、多數

出征兵の

試掘願許可さる

澤常松 篠山廉 柴田徳 二 酒井寅之助 津田達 造 駒場謙 野崎滿藏 諸橋久太郎

平町出征兵井上榮市、上等兵外七君を招き回顧座談會を開いた

石炭礦區が

海岸に延長

試掘願許可さる

磐城炭礦會社出願の小名濱玉川、泉村に跨る九十九萬七千二百坪、同小名濱、江名に跨る五十二萬一千三百坪、入山炭礦會社出願の江名、鹿島村に跨る八十七萬九千八百坪、同江名、豊間

体育デー中心に

平商運動部飛躍

平商は来る十一月三日の體育デーを中心に全校生の野球、庭球、弓道、武道、陸上競技等の校内體育大會を開催すべく目下準備中であるが陸上競技の種目は左の如くである

- 平町 人事
- 回 出 生
- △田町一七 當時相馬郡中村町中村字田町四六西丸 貞一郎氏長女キヨさん
- 回 婚 姻
- △田町一七 西丸貞一郎 (三八)相馬郡中村町新町 二一〇渡部ハルさん (二三)

國道の舗装

殆んど完了

一丁目角擴張は

實現困難の模様

兩者の主張に甚しい開き

總工費二萬圓を以て七月下旬着工した平町國道舗装工事は着工後二ヶ月にして早くも二丁目までを完工、既に一丁目のコンクリート舗装を終了して、乳劑の塗付を待つばかりであるが最近雨続きの爲めコンクリート乾燥せず平土木監督所でも惱んでゐるが遅くも本月二十五日頃までに竣工するものと見られこの工事施行期間中通行を禁止され、てゐた本町通り一部の自動車運轉も同時に復活する筈で自動車營業者からは一日も早く竣工する様待たれてゐる尙元警

倍額以上の希望らしく兩者の懸隔甚だしい爲め實現困難な模様であつて交通事故緩和の折角の名案もこのまゝ埋れるのではないかと見られてゐる

映畫に

現れた裁判

吉岡検事の講演

平青年團修養部の例會

平青年團では来る二十日午後七時よりマルトモホールに於て月次修養會を開き平區才判所檢事吉岡直述氏の『映畫に現れた裁判』と題す

同御厩小學校十月五日各全校兒童の秋季陸上運動會を催す由

神輿奉仕

分團詮衡

平青年團では来る十九日午後七時から副團長青天目氏宅に於て幹部會を開き來年度の縣社小齋會神輿奉仕御奉仕分團其他を決定する

平第一校

同窓會開催

平第一小學校同窓會は来る

好酒家の反省を

促す意味の求刑

傷害致死事件の公判

懲役五年に

既報三坂村大字下三坂字家ノ前八八木羽職根本常太郎(五)が去月一日午前九時頃飲酒口論の末川前字外門七〇木羽職伊藤政次郎(六)を丸太棒で傷害致死せしめた事件の公判は本日午前九時より平支部に於て中島才判長係り關口、香西兩判事陪席清田檢事立會安齋官選辯護士列席の下に開廷されたが被告は才判長の訊問に對し『利は後れが日清日露の戦へに出征した人だけに力が強く到底勝味がないので逃げた處追ひ掛けられた夢中で殴つたのですから殺す氣は毛頭ありません』と陳述檢事の論告に移り『被告の申立と當時の



今晚も明日も北西の風晴曇相半

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「滿洲國萬才」 東京放送童話劇協會 後六、二五 英語講座 峰尾 都治 後七、三〇 帝國在郷軍人會本部主催(滿洲事變記) 二十二日午後一時より同校講堂に於て開催されるが當日は來賓の講演や各會員の餘興等がある筈

警女運動會準備

既報来る十月十七日第二十一回陸上大運動會を開催する事になった警女では来る二十八日これが準備委員會を開き種々協議すると

飲酒中の喧嘩

傍觀者たる被害者の妻ハルの申立とは全然相違してゐる然し殺した事實に變りないのでだから今改めて論ずる必要はない只僅か一升許りの酒を飲んで人の命を奪つた事は寔に遺憾な事世の飲酒家にも大いに反省を促し度い」と論じ懲役五年を

彼岸の中日に

恩師の墓参り

平第二小學校生徒が

平第二小學校では来る二十四日の秋季皇靈祭當日例年の如く各學年代表が地下に眠れる恩師並に級友の墓参りをしてその靈を慰むる由

明日の部

前六、三〇 實用文講座 (三)吉川秀雄 前七、一〇 聖典講義(十) 牛岡三勝平大喜 前九、一〇 料理献立 中村康子 前一〇、三五 婦人醫學講座(四)生理學二醫學博士 加藤元一 後〇、〇五 金剛琴合奏八木しやう子外大勢 後二、〇〇 母の時間 子供の間 食醫學博士太田孝之 高松四段 遠藤三三 渡邊(温)二段 佐藤二段 室井二段 大谷二段 茂

匡救事業未着手の

十七ヶ村を督勵

平土木監督所管内に於ける九年度匡救事業町村工事は二十二ヶ村村總額四萬七千圓の道路河川改修を施行の筈であつたが既報の如く鹿島村の工費五百圓の道路改修工事が竣工したのみで現在着工中の町村は僅かに四ヶ町村、他の十七ヶ町村は既に六ヶ月を経過するも未だに着工しないので平土木監督所では至急着工する様未着工町村に對して督勵の文書を發送した

平職業紹介所報告

求人を求める方
△漁業雑夫 二十一—三十才 位 學力不問 給料面談
△女中 十八—二十才 尋 月給四圓—五圓
△漁業雑夫 二十一—三十才 位 學力不問 給料面談
△回職を求める方
△旅館番頭 四十五才 尋 四修
△女中 三十九才 高卒
△集金人 五十二才 高卒
△土工夫 二十九才 尋卒
△事務員 二十四才 高卒

北振勝つ

對法曹野球

材木町、鍛冶町各青年の聯合野球チーム北振クラブ對平法曹團野球戦は十六日午後一時より平商球場で舉行十三A對五のスコアで北

近斬首頭

田邊南龍(作) 山本英春(畫)

卑怯もの、集合
是りやア事によると容易ならざる頼みだと心中に考へて居る。

と云つて出て来たのは鳴神藤藏の一の乾兒で羅生門の作太郎背中に羅生門の刺青をして居るから羅生門の作と云はれる、田舎で草相撲を取つた男で力はある却



「先生お頼みの趣きは何う云ふ譯でございますか、私共にも際分無法者が居ります、お話し下さいませ様に」
「外でもないが拙者が耻をお話申す様だが、大川端の濱町に道場を開いて居る江田仁兵衛と云ふものに打込まれて耻をかき道場を疊んで夜逃げ同様にしてこの四谷の裏屋を借りて居る始末右の仁兵衛事他出をした節に、卑劣な事を申す様だが拙者に弟子が五人ある、拙者共六人何うか親分の力をお借り申して亡きものに致したいと心得る、宜しくお願ひを仕りたい」
「宜しうございます、江田の仁兵衛と云ふは何んな強い先生か知らんが、私共の家にも元剣術の先生で相應に出来る人が居ります、仁兵衛が何處か遊びにでも参ります途中を見て取逃がさねえで打つ放してしまひやせう、御安心なさいませう」
「有難い仕合せ、何分頼む」「オ、作や」「ハイ」

「親分御用でござえますか」「ウーム、只今此の先生が若者に酒でも買へと云つて大金を下すつた、お禮を申上げろ」
「是は先生初めましてお目

通りをいたします、私は作太郎と申します無調法者でございます、只今は何よりの品を有難う存じます、お禮を申し上げます」
「イヤお禮は痛み入ります」「作」
「ハイ」
「此の先生が仰しやるには濱町に江田の仁兵衛と云ふ先生が道場を開いて居ると云ふ事だ」
「ハイ」

たところを確めて貰ひてえ江戸の真ん中ではやり難いから場末の方が宜いな」
「宜しうござえます何處かへ出向く處を俺が見届けて手配りをいたしませう」
「先生、彼の作に申付けましてございますから、様子の分り次第お知らせ申します、御安心なさいませう」
「イヤ夫れは忝ない」
と禮を申して居る所へ眺へてあつたものと見え酒肴が出る。金子には目の昏るもので百五十兩と云ふ金が目の前に並んだものだから恨みも仇もない江田の仁兵衛を斬る氣になつた、羅生門は二人の乾兒を連れて仁兵衛の道場の様子を窺つて居ります、其内に月日も経つたが、仁兵衛はさつ張り外へ出さうもない、羅生門の作太郎は菊地先生の處へ體裁は悪いが道場へ斬り込む譯にも往かない、すると三月の十五日、弟子方は今日はお稽古の休みゆゑ仁兵衛は向島へ花見に出掛ける、其頃ほひは未だ今日の様に向島の櫻の花は澤山にはなかつた。

貨切の御用命

ぜひ・三井自動車部へ!!!

電話六八五番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

謹告
最近ツルヤ商店ノ名儀ヲ使用シテ寶石貴金屬其他ノ賈造物ヲ持參シテ訪問販賣スルモノアリト其筋ヨリ注意ガアリマシタカラ之等不正販賣人ノ口車ニ乘リ賈造物ノ買取リヲナサル様御注意申上ゲマス、モシ右様ノ者ガ参リマシタ時ハ警察署へ御知ラセ下サイ。

ツルヤ

御客様

中村 齒科醫院

平町銀治町七

かまぼこ

今年も例年通り

お徳造

相はじめました何卒御用命の程!

平町二丁目

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

不味寛

電話一四一番

玉屋洋品店

平町四通電話六五六番

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九一番)

山内醫院

病室完備 自炊便有

醫學士 山内 亨 吉